

日本港湾協会が今日の名称になったのは昭和28年からである。それまでは「港湾協会」と称していた。昭和27年、港湾協会設立30周年記念行事として神戸において「神戸国際港湾会議」が開かれ、運輸省の大先達である秋山龍(とおる)氏、松本学氏、原口忠次郎氏らから「国際港湾協会」の構想が提唱された。その発足を見越し、混乱を避けるため昭和28年から「日本」を冠することにしたと伝えられている。国際港湾協会(IAPH)は3年後の昭和30年(1955年)に正式に発足し、今年は丁度50年目に当たっている。



理事長 栢原 英郎

視 察

【北東アジア港湾物流ミッション～貿易回廊1000kmの道～】

8月28日から9月4日まで当協会のミッションは、ロシア沿海州港湾を訪問、さらに中口陸上国境を越えて綏芬河、牡丹江両市訪問、最後に内陸奥のハルピンを訪れ約1000kmに及ぶ物流調査を実施しました。このルートは北東アジアの最重要ルートであり、綏芬河輸送回廊と称している重要貿易回廊であります。

我々は多くの関係者を訪問し、輸送の現状と課題をそれなりに把握してきました。しかし、最も意義あることはミッションの各メンバーが北東アジアの生の社会、人、地域、息つかいに直接ふれたことでもあります。後日、詳細な報告を取りまとめますが、ここでは幾つかの印象を紹介します。



北東アジア輸送回廊

①中古日本車の輸入

ロシア沿岸州の都市では日本からの中古車の多さに驚きました。たとえば、ウラジオストックで通行している車の約85%は日本の中古車です。また、今年のウラジオストック港の日本からの中古車輸入は16万台の予定で、貿易額の30%を占めるであろうとの見通しをたてています。道路にはトヨタ車があふれ、日本の会社名がそのまま書かれた車にもたまに会います。

②港湾の運営の民営化

ロシアの港湾は防波堤、泊地、岸壁の一定の幅の部分は国が施設保有していますが、港の整備、運営は民間が行っています。

たとえば、ポストチヌイ港では一般埠頭はポストチヌイ商業港株式会社、コンテナについてはVICISと呼ばれる民間会社等が整備、運営しており、その認可は国が行い州政府、市は管理運営に直接係わっていません。特に、港の能力向上のためバースの専用利用を進める等の方針をたてています。

③中口国境周辺の印象

ロシア国境の町ポグラニーチヌイを超え中国の綏芬河市に入ると急に明るい開放感を感じます。それはロシアの警備体制の厳しさと延々と続く荒野から活気漲る都市に移動したためです。

また、通行証が事前に届いていないとこのことで周りに何も無いような所で2時間も出国が許されず、一方、中国側は美しい建物の中で迅速に手続きが終了したことも理由です。



委員会スタート

【名古屋港新基本構想検討 有識者懇談会】

概ね20年先を目標年次とする名古屋港の新基本構想策定に向けて、有識者懇談会（委員長 日本港湾協会 栢原理事長）を設置し、10月3日に名古屋港ポートビルにおいて、第1回懇談会が開催されました。

「ものづくり拠点」中部圏は製造品出荷額で全国の約3割を占め、先進国カナダの経済に匹敵する規模です。中部経済産業を支える名古屋港は、貿易額で4年連続全国1位です。一方で、最近オープンしたイタリア村などに代表されるように、市民の憩いの場としても親しまれています。

今後少子高齢化の急速な進行、中国等の著しい経済成長や経済のグローバル化、循環型社会構築や安全確保への要請等、中部圏や名古屋港を取り巻く環境は、劇的に変化していくことが予想されます。

そのため、懇談会では、将来の社会経済情勢の予測シナリオおよび地域や名古屋港の方向性を検討し、市民アンケートなども実施しつつ、新基本構想の理念・方針について、考え方を取りまとめていく予定です。なお、18年度は関係者、市民等を含む委員会を設置し、新基本構想の策定を予定しています。

【担当：井上】



ポストツナイ港のVICSコンテナターミナル

中ロ国境では相互の貿易を進展させるためビザなしでも入場できる自由貿易区の建設が2007年を目標に進められております。中国側は香港の財閥が4500万ドル投資して建設が進められておりますが、ロシア側は一部道路の舗装が進んでいる他はほとんど進んでいない状況です。

④貿易回廊充実強化にむけての3つの課題

黒龍江省から大連経由日本海地域よりウラジオストック経由は距離が短く輸送上有利と考えられますが、その充実強化には3つの課題があります。一つは中ロの鉄道のレールの幅が異なりシームレスな輸送が困難であること、二つはロシアの輸送運賃がよく変わること、三つは背後地域の需要量が少ないことであります。現在、これらの課題について両国家、省、県レベルでの話し合いがすすめられております。

⑤戦争の歴史観

今回の出張では至るところで戦後60周年記念の看板等が目につきました。特に、綏芬河市では50メートル位にわたり日本の軍隊が行った酷い写真を広場に展示して多くの市民が列をつくって見ていました。大きな穴に死体を投げている写真、中国民の首をはねている写真、731部隊の写真等々であります。日本では昔のことは「水に流す」という言葉がありますが、中国では歴史をつないで後世に残していることを痛感しました。

【担当：橋立】



名古屋港の全景と有識者懇談会風景

お知らせ

【11月行事予定】

6日～13日……17年度海外港湾視察
(シンガポール、タン、ペナンetc)

15日～17日……港湾行政研究会(技術講習会)
(詳細はHP、機関誌「港湾」10月号参)

24日……全国港湾知事協議会
(ホテルオークラ)

【出版物】

出版物・書籍等につきましては、前後の号をご参照お願い申し上げます。